

地域と協働で行う史跡保全と環境美化が児童の自己肯定感育む

## 協会会長賞 広島県 福山市立中条小学校

四季折々の表情を見せる山々に囲まれ、ホタルが舞う豊かな自然に抱かれた同校では、地域団体や住民、行政の支援のもと、さまざまな美化活動を実践している。中でも特徴的なのが、登録有形文化財の「砂留」や、江戸時代の漢学者「菅茶山」と関わりが深い寒水寺、古墳など地域に多く点在する史跡の保全を兼ねた取り組みを行っている点だ。

山に目を向ければ、山中に佇む寒水寺へ登る古道は以前、人が通れないほど荒れていたが、地域団体が整備をしてよみがえらせた。これを機に、児童は毎年、行事のつど、古道に散乱しているペットボトルなどの資源ごみを回収するようになり、古刹を訪れる人たちが徐々に増えてきた。

川に目を向ければ、近隣を流れる堂々川の歴史的価値の高い土砂流出対策の砂留付近を、定期的に地域団体や行政と水質調査している。また、不法投棄やイノシシ対策として、川の土手沿いに彼岸花の球根を植える活動も、住民の協力を得ながら続けている。夏はホタルが飛び、秋は12色の彼岸花が川の斜面を彩り、多くの人たちが訪れる名所になった。こうした活動を行う道中でも、車道脇のポイ捨てごみを回収するなど、児童は常に地域とのつながりを実感しながら、ふるさとの環境美化と史跡保護に勤しんでいる。

その背景にあるのが、受け継がれてきた「一斉清掃下校」の取り組み姿勢だ。毎学期、一斉下校時に道路脇に散乱している空き缶などを回収しながら地域を清掃する活動で、どの児童も積極的に見回る。そして、この様子を見守るのが、地域住民で結成された「交通安全見守り隊」。住民の1人で「深水自然を守る会」会長の波戸忠重さんは、「児童が一生懸命ごみを拾う姿を見るたび、大人もその姿勢を見習おうという思いになりますし、児童の元気な声が私たちの力の源になっています」とほほ笑む。

美化活動を通じた住民の温かいまなざしや励みとなる言葉かけが、児童の郷土愛や自己肯定感をじっくりと育てている。



### 広島県福山市立中条（ちゅうじょう）小学校

学校長：穂垣 由里子

児童数：150名（2016年11月末現在）

住所：広島県福山市神辺町東中条 2304-1

電話：084-967-0400

アクセス：JR「湯田村」駅からタクシーで約10分

写真上：代々受け継がれている一斉清掃下校の様子、上から2番目：文化資産の砂留を背景に川の水質調査を実施、上から3番目：住民の指導のもと、川の土手沿いに彼岸花の球根を植樹、下：地域住民に見守られながら美化活動を通して郷土愛育む